

多党制への道 重層的に

インド 暴力と民主主義



もしない。

一体、なぜインド国民会議派の1党優位支配が崩壊したのか。なぜ、その後台頭した政党がカーストや宗教のアイデンティティを中心とした政党となったのか。そして、1990年代以降、競合的多党制が成立し現在に至っているのか。本書は、まさにこのような根本問題に解答をあたえようとした野心作である。

本書は、日本語で書かれた現代インド政治研究として、近年まれにみる秀作である。インドといえは、日本人の多くにとってガンジーとネルルの国である。独立後かなりの間、彼らが育てた国民会議派の1党優位体制が続いていたが、21世紀の今日、インド政治は、国民会議派とともに宗教やカーストのアイデンティティをベースにした数多くの政党が競合する複雑な政治体制になっている。世界一複雑な民主主義といってもいいか

めて印象的である。

インド全体のマクロな政治動向にくわえ、暴動の最も激しかったビハール州、さらにはその中の一つの村の政治にまで分け入り詳細な分析を行う。各党の選挙戦略をモデル化する(地主動員モデル、カースト動員モデル、宗教動員モデル)ことで、政党の政治行動をいわば合理的に説明する。さらに、その中で決定的な分岐をもたらし、たものとして、政党や指導者の暴動への対処法に着目する。こうして、著者は複雑なインド社会で行われる政治過程を分析的にしかも歴史的に描き出すことに成功している。

本書で私が試みたことは3点あります。第1点は、カースト政党や宗教政党といったアイデンティティ政党の台頭を包括的に分析すること、第2点は、中央のデリーの政治と末端に位置する村の政治をつなげて理解すること、最後に、暴力の原

本書で私が試みたことは3点あります。第1点は、カースト政党や宗教政党といったアイデンティティ政党の台頭を包括的に分析すること、第2点は、中央のデリーの政治と末端に位置する村の政治をつなげて理解すること、最後に、暴力の原



なかみぞ・かずや 1970年福岡県生まれ。東京大学法学部卒。インド・ネルー大学留学。東京大学大学院法学政治学研究科より博士号(法学)取得。京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科客員准教授。論文に「地主と虐殺」(『アジア・アフリカ地域研究』)、「暴動と経済」(『国際政治』)など。

民主主義の可能性

すが、このたび特別賞をいただき大変光栄に存じます。

インド研究を志したインド民主主義のダイナミクは、インドと日本ではまだ十分に知られていないと思います。

日本は、インドと同じくアジアの歴史ある民主主義国として、新しい世界の実現へ向けた理念を協力して打ち出すことができるし、インド民主主義の実践に及ぶべきだろうと考えています。